

学校建築研究の視点から教師の仕事を考える

上野 淳（首都大学東京）

1. 建築計画学と学校研究

「建築計画学」は、建築構造学、建築環境工学などと並んで、建築学の主要な一分野をなすものであり、広くいえば「建築・都市空間の在り方とそこにおける人間の生活・行動・意識の相互関係を考究する学問分野」とすることができる。建築・都市空間を計画・デザインする際に参照すべき知見を体系的に編むことを目的としている。

建築計画学が対象とするフィールドは住宅、集合住宅、学校、病院、高齢者施設、生涯学習施設など多岐に渡るが、中でも「学校建築」は地域公共施設のなかでも最も数が多く普遍的な建物種別であることから、研究論文の数も多く、「学校建築研究」は一つの大きな分野を成しているといえる。

2. 建築計画学の学校研究とその主要分野

建築計画学の分野で取り組まれている学校研究の主たる関心事は、‘学校における学習・生活展開の実際をどのように捉え、これを建築空間の企画・計画のための要件としてどのように抽出するか’にある。従って、主たる対象は児童生徒であり、一方の主役である‘教師達’に視点が置かれることは残念ながら極めて希であった。

「職場環境から教師の仕事を考える」という今回の指定された課題について、筆者は寡聞にして見識を持ち合わせていないが、今までに取り組まれてきた建築計画学における学校研究の幾つかの主要な分野について系譜を整理し、ひとまずの話題提供としたい。尚、蛇足として筆者がそれぞれの分野で発表してきた主要な既往論文（日本建築学会：査読審査付）を掲げ、笑覧の材料とする。

（1）オープンプラン小学校の研究

1960年代後半から70年代にかけて起こったイギリス・アメリカの学校建築の改革の動向は、1980年代半ばになって我が国でも‘オープンプラン小学校’の登場と普及として現象した。この四半世紀の小学校研究は、この建築計画の改革が小学校現場における実際の学習・生活活動にどのように機能したかを検証する営為に追われていた、ともいえる。オープンスペースを媒介としてどのような弾力的な学習形式が登場したかを追跡する研究であるが、考えてみれば学習環境構成や弾力的な学習集団の編成は教師による主導によるものであり、ある意味では教師研究といえるかもしれない。

[上野淳・査読審査付論文……主要なもののみ]

- 1) 小学校オープンスペースにおける場・コーナーの形成に関する分析……小学校オープンスペースの使われ方に関する調査研究（1）：上野淳，連健夫：日本建築学会・計画系論文報告集：第386号：1988.04：pp.90～100
- 2) 小学校オープンスペースにおける学習展開に関する分析……小学校オープンスペースの使われ方に関する調査研究（2）：上野淳：日本建築学会・計画系論文報告集：第406号：1989.12：pp.73～85
- 3) イギリスの小学校における学習・生活活動と学習スペースの構成：上野淳，連健夫：日本建築学会・計画系論文集：第460号：1994.06：pp.95～102

（2）教科教室型運営の中学校研究

中学校運営の主要な課題は、‘生徒指導’と‘部活動’だとしばしば囁かれる。しかし、建築計画研究者にとっての究極の課題は学習環境構成において如何に魅力的な空間構成を提供できるかにある。中学校における日々の授業活動を活性化し、教師達の授業力を発揮できる教科教室型運営の中学校計画に近年関心が集まっている。筆者も

幾つかの実際の設計を含めて実践例をもっているが、学校の運営方式に関する研究であり、ある側面では教師研究といえるかもしれない。

[上野淳・査読審査付論文……主要なもののみ]

- 4) 中学校におけるカリキュラム・時間割の実態からみた教室整備に関する研究—新学習指導要領に対応した教科別教室数の算定—：星野賢司，倉斗綾子，山田あすか，新田佳代，上野淳：日本建築学会技術報告集，No.20：2004.12.：pp239-244
- 5) 学習集団の編成と展開からみた中学校の建築計画に関する研究：新田佳代，倉斗綾子，上野淳：日本建築学会計画系論文集：No.605，2006.07.：pp39-45.
- 6) 学校運営と利用者の意識・評価からみた都市型教科教室型中学校のP O E検証—目黒中央中学校のケーススタディー—：杉田淳志，上野淳：日本建築学会技術報告集，No.35：2011.02.：pp283-288.

(3) 環境心理からみた学校空間研究

学校は青少年期，多感な児童生徒が多くに時間を過ごす生活空間である。この学校空間が心象風景として児童生徒にどのように映っているか，学校空間を児童生徒はどのように意識し，評価しているか，は建築家としての重大関心事といえる。環境心理学，環境行動学などの手法によって，学校空間をどのように解析し解釈するか，についても一定の営為が続けられてきた。与えられた学校空間は，経年と共に教師達や児童生徒によって設えられ，使いこなされていく。この使いこなされていくプロセスにおける環境構成上の特性の研究は，ある側面で教師研究といえるかもしれない。

[上野淳・査読審査付論文……主要なもののみ]

- 7) 中学校における生徒の場所の想起と居場所の選択に関する考察：常陰有美，倉斗綾子，新田佳代，上野淳：日本建築学会計画系論文集：No.604，2006.06.：pp31-37
- 8) 学校教室の天井高が音・光環境と生徒による環境評価に及ぼす影響：宗方淳，佐久間哲哉，平手小太郎，倉斗綾子，橋本都子，上野淳：日本建築学会環境系論文集：No.605，2006.07.：pp127-132.
- 9) 教師の教室環境評価からみた適正学級規模に関する考察—全国学校・教師アンケート調査から—：倉斗綾子，宗方淳，橋本都子，佐藤将之，丹沢広行，上野淳：日本建築学会計画系論文集：No.614，2007.04.：pp73-79

(4) 地域公共施設としての学校研究

学校建築はもともと数が多い地域公共施設であり，地域の生涯学習活動に積極的に寄与することが求められている。教師達には余計な事かもしれないが，この関心の高さに対し，地域公共施設としての学校が果たすべき役割・機能についても多くの研究例がある。

[上野淳・査読審査付論文……主要なもののみ]

- 10) 東京都における公立小中学校と地域公共施設との複合化事例における建築概要に関する実態調査：斉藤潔，上野淳：日本建築学会技術報告集，No.21：2005.06.：pp249-254
- 11) 都内公立小中学校と地域公共施設との複合化事例における管理・運営の実態と管理者の意識について：斉藤潔，金子光亮，上野淳：日本建築学会技術報告集，No.24：2006.12.：pp317-322

3. 教師達の職場環境としての学校

一般的な中学校教師を例として考えてみると，彼等は教科担任制における教科授業の主導者であり，加えて，クラス・学年の経営，校務分掌の担当，部活動の指導，などの業務がある。地域社会と深く関わりを持つ場合もあり，その業務は多岐に渡り，活動の場も学校全体，場合によっては地域社会へと広がる。この全てが職場環境となるわけで，この多様性についての理解がこの議論のためには不可欠であると気付く。課題研究集会では，学校建築の視点から討論に参加し，様々な御批評をいただくことを愉しみにしている。